

57 就労移行支援利用者状況

——「就労支援のための訓練生用チェックリスト」を通して——

理療教育・就労支援部 就労移行支援課

近藤和弘 澁谷公平 若林耕司 秋山静江 寺本和正 加藤禎彦

総合相談支援部 総合支援課 河野智子

1. はじめに

就労移行支援の初期評価は、利用者が希望する訓練内容の作業評価等を実施してきた。平成 25 年 4 月から、作業評価に加えて就労における利用者像の共通理解のために、「就労支援のための訓練生用チェックリスト（以下、チェックリスト）独立行政法人高齢・障害者・求職者支援機構障害者総合職業センター2009年3月」を使用し、初期評価時、及び3ヶ月毎のモニタリング時にチェックを実施している。今回、利用者の初期評価時のデータを基に利用者状況を整理したので報告を行う。

2. 方法

内容：チェックリスト（4領域 28項目、4段階評価）（別紙）。対象者：平成 25 年 4 月～平成 26 年 9 月の 1 年半の間に就労移行支援の訓練を開始した者 28 名。調査方法：初期評価時のデータを全体、男女別、障害別、就業経験について平均値（1.0～4.0）で整理を行った。なお、項目毎に対象者 28 名の内 15 名以上の記入があった 22 項目を有効、6 項目を無効（課題で説明）とした。

4. 結果と支援のポイント

（1）全体：2.2～3.5 に分布。「領域Ⅲ：作業能力」、次いで「領域Ⅱ：対人関係」が低い傾向にある。会社からは特に正確性、対人対応力を求められる事が多く正に支援の中心と考える。（図 1）

（2）男女別：男性 21 名（3.0）。女性 7 名（2.6）。「Ⅲ-5 器用さ」を除き男性の方が高かった。女性は様々面で就労準備が低い傾向にあると言える。特に「Ⅱ-3 意思表示」「Ⅲ-1 体力」では男性と大きな差があることを配慮した支援が必要と考える。（図 2）

（3）障害別：高次脳機能障害群 17 名（3.0）、非高次脳機能障害群 11 名（2.8）。高次脳機能障害の影響で突出して低い項目はなかった。むしろ、「Ⅳ-2 質問・報告・連絡」「Ⅳ-3 時間の遵守」「Ⅳ-6 責任感」で高次脳機能障害群が高かった。それ以外は、両群とも支援のポイントは似た傾向と考える。（図 3）

車椅子利用群 8 名（2.9）と非車椅子群 20 名（2.9）の平均値は同じであったが、車椅子利用群は「領域Ⅰ：日常生活」「領域Ⅱ：対人関係」にやや高い傾向があり、非車椅子群は「領域Ⅲ：作業力」「領域Ⅳ：作業への態度」にやや高い傾向があった。特に、車椅子利用群は「領域Ⅲ：作業力」「領域Ⅳ：作業への態度」が低い傾向があり、配慮した支援が必要と考える。（図 4）

（4）就業経験別：就業経験有り群 18 名（3.1）。無し群 10 名（2.5）。平均値 3 以上の項目を比べると、就業経験有り群は 15 項目に対して、無し群は 2 項目であった。特に「Ⅲ-3 機器・道具の使用」「Ⅳ-6 責任感」には大きな差があった。就業経験無し群には日常生活の安定、対人対応、作業能力、作業への取り組みの向上といった全体的な働くための力をつける支援が必要と考える。（図 5）

5. 課題

（1）無効項目（6 項目）について。無記入の理由は大きく二つある。一つ目は、初期評価の短期間中ではチェックしにくい項目であること。モニタリング時に補完していく事で正確性を高める必要がある。二つ目は、「領域Ⅰ：日常生活」に 5 項目と多いことから訓練室内ではチェックしにくい項目であるといえる。今後は、生活支援の担当者と連携してチェックを行い正確性の向上を図り、関係スタッフの情報共有の一助としての利用が望まれる。

（2）帰結状況等について。現時点では、帰結者が少数（4 名）のために、今後、初期から中期・終期への訓練効果や就職者と非就職者状況等の整理については、さらなるデータ蓄積後に待たれる。

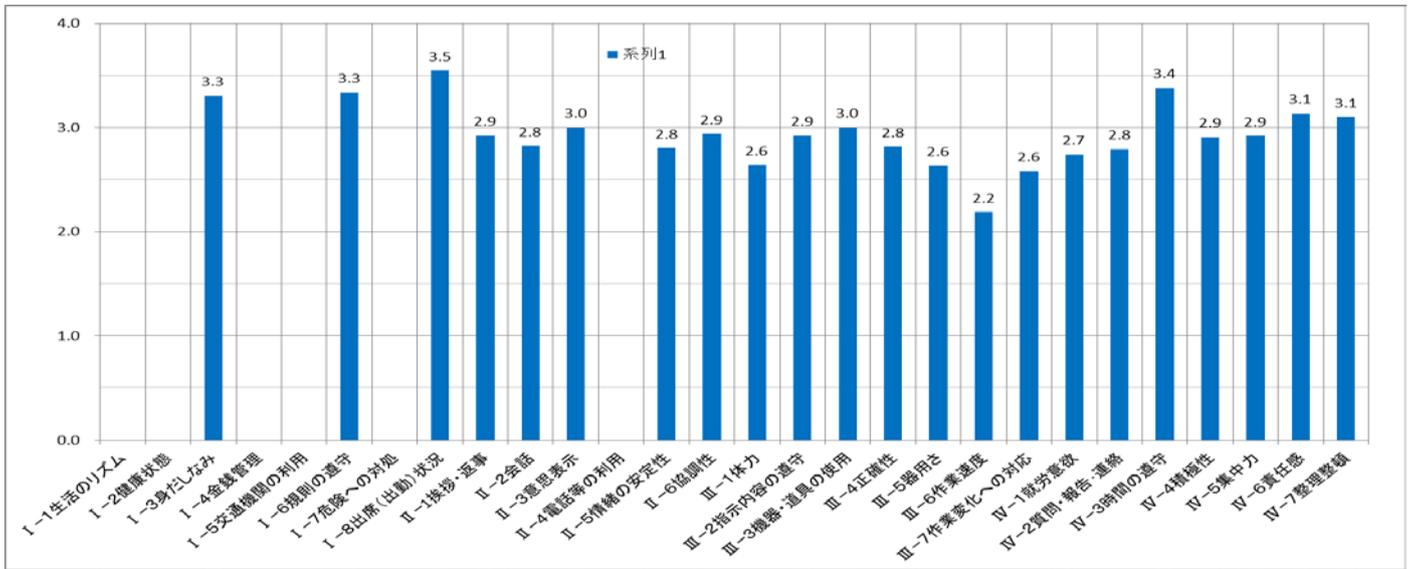


図1 項目別評価結果(全体)

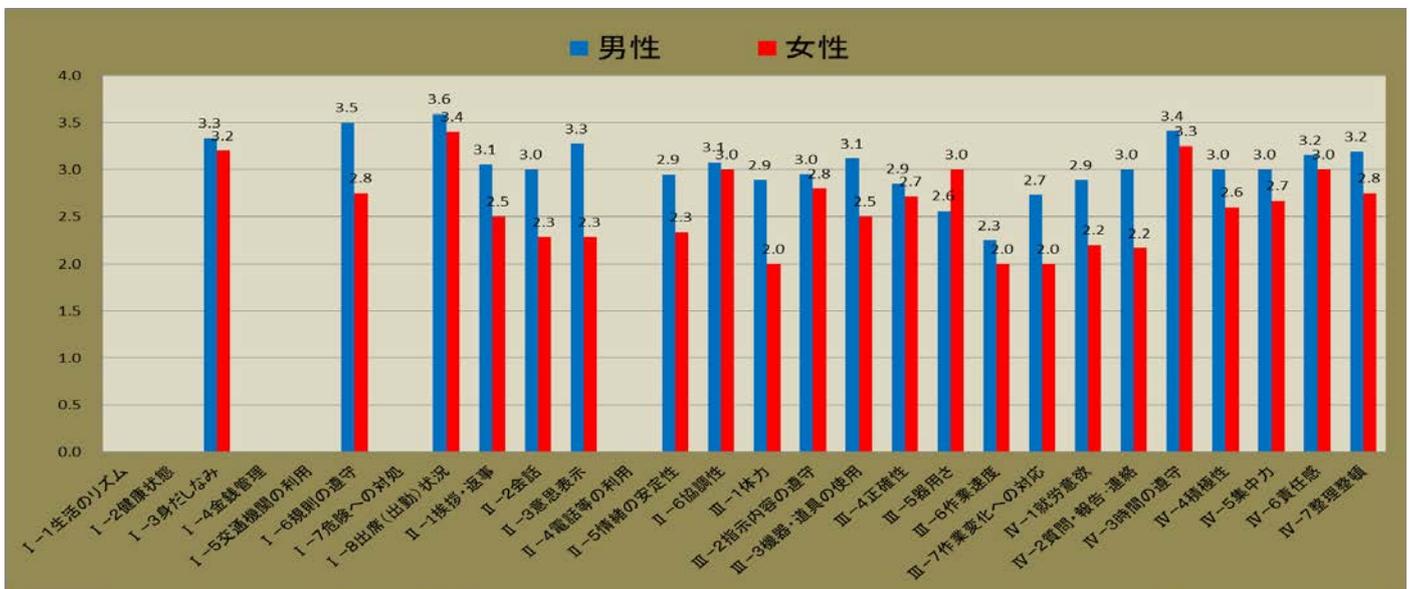


図2 男性と女性

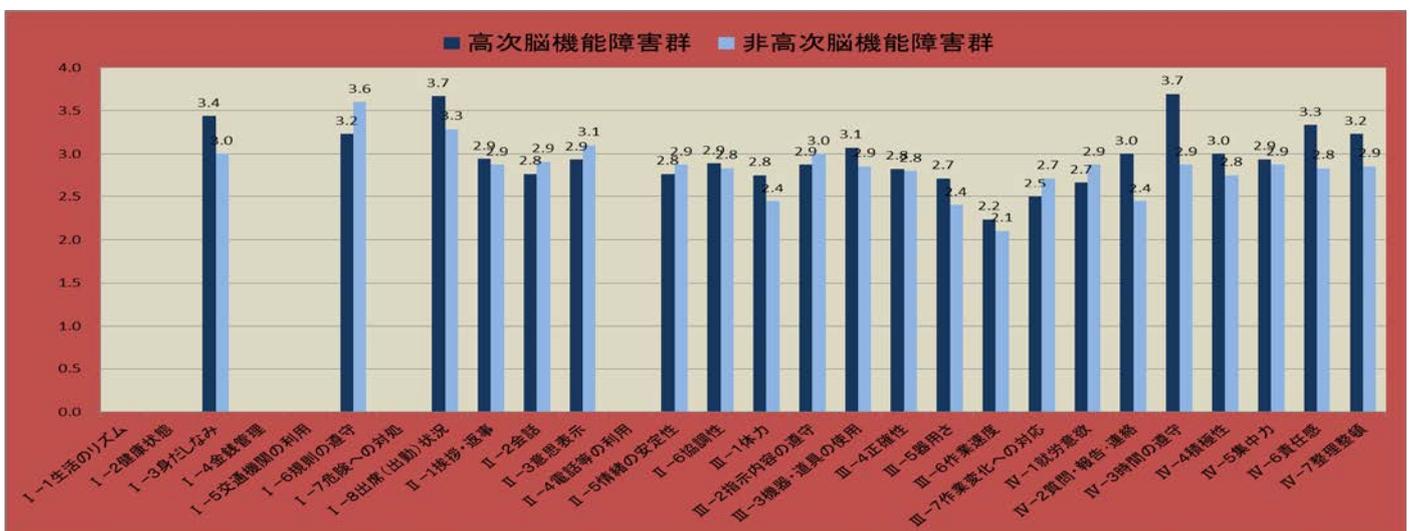


図3 高次脳障害群と非高次脳障害群

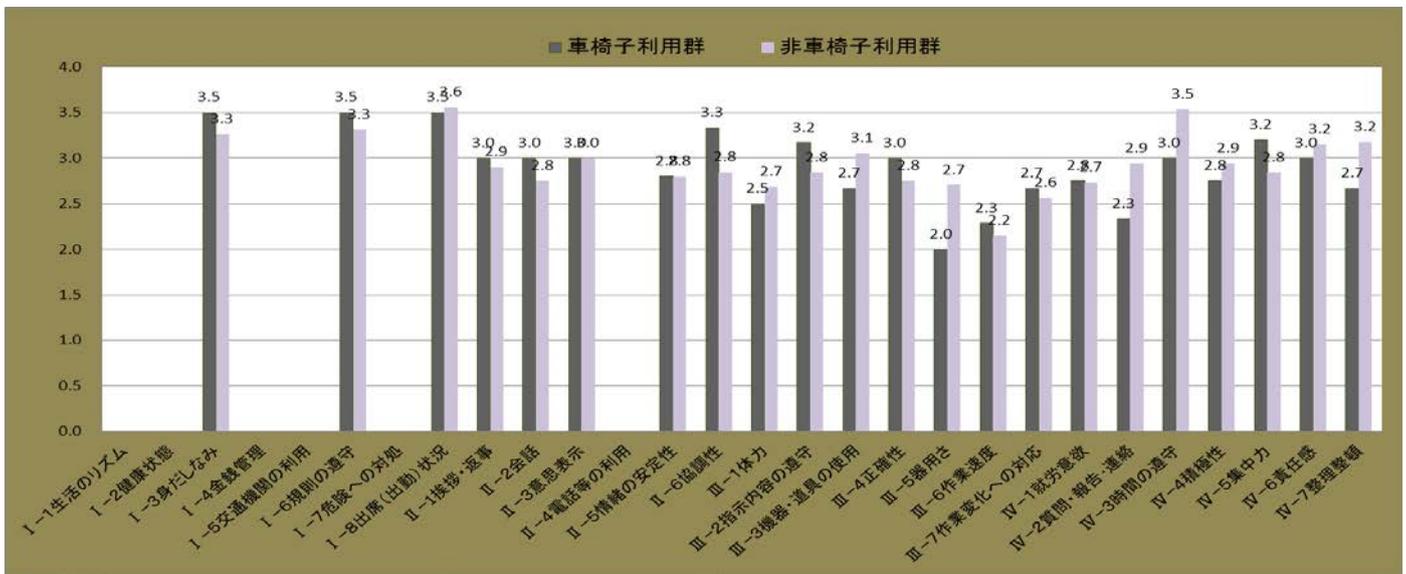


図4 車椅子利用群と非車椅子利用群

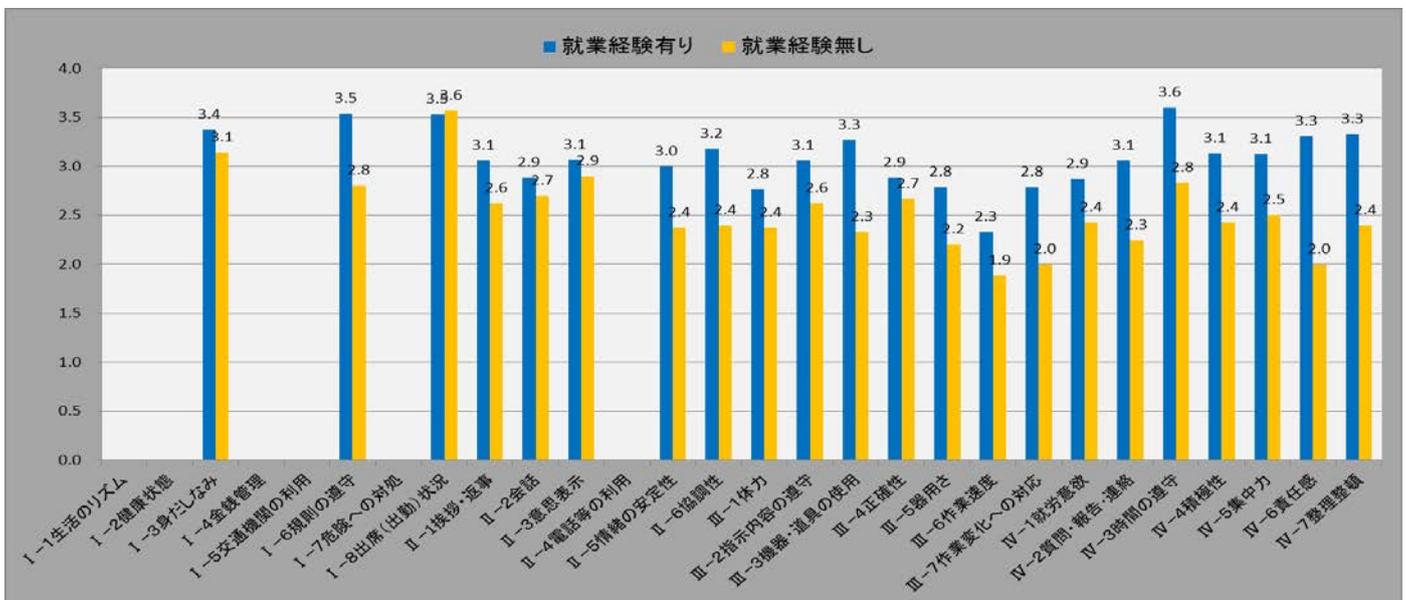


図5 就業経験有り群と就業経験無し群